

令和7年度 グループホーム共生の里・短期入所共生の里 地域連携推進会議

日時	令和8年1月14日（水）14：00 ～ 春風ホーム2階食堂にて
参加者	① ご利用者代表・・・M.A ② ご利用ご家族代表・・・Y.A ③ 地域の関係者・・・K.T ④ 福祉に知見のある方・・・Y.O ⑤ 経営に知見のある方・・・T.K ⑥ 施設等所在地の市町村担当者・・・N、O ⑦ グループホーム共生の里職員・・・管理者 金子 サービス管理責任者 佐野 （司会） 浦川 （議事録）
式次第	
1.開会の言葉	管理者 金子
2.会議・議題	① 構成員の紹介 ② 地域連携推進会議（年1回開催）の目的 ・利用者との関係づくり ・地域の人への施設等や利用者に関する理解の促進 ・施設等やサービスの透明性・質の確保 ・利用者の権利擁護 ③ 「グループホーム共生の里」と、「短期入所共生の里」の経営状況 ・現状報告 （令和7年12月末までの事業報告書を配布し説明） ・2003年（平成15年）7月1日より、特定非営利活動法人として活動開始 ・現在の定員・職員体制・年間行事・利用者の日中活動先 ・障害支援区分・入居率・研修報告・2025年度の動向等 ・運営状況 ・「グループホーム共生の里」「短期入所共生の里」運営規程の内容説明 ・利用者に対する相談 ・食事の提供 ・健康管理・金銭管理の援助 ・余暇活動の支援 ・職場等の連絡調整 ・財産管理等の日常生活に必要な援助 ・緊急時等の対応 ・協力医療機関（精神科：行橋記念病院 歯科：毛利歯科 感染症対策：小波瀬病院）

	<ul style="list-style-type: none"> ・ G H 共生の里 苦情解決責任者：(金子) 窓口：(田中) ・ 社会福祉法人 共生の里 苦情解決責任者： (西：ゆくはし生活相談センター管理者) ・ 個別支援計画について説明 ・ 身体拘束について説明 利用者に事前説明・同意書を得た上で 「切迫性・非代替性・一時性」の3原則に基づき行う。 ※これまでの事例説明 (自傷他害の恐れのある方の体を毛布で保護し受診同行等) ・ 地域生活支援拠点事業の説明 緊急時の短期入所受け入れ実績について報告 過去に虐待案件等で計3件の緊急受け入れ実績あり <p>④ 事業報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループホーム利用者の高齢化: 開所当初(22年前)に 50代で入居した利用者が現在70代後半になるなど、利用 者の高齢化が進行。多くの利用者が、慣れ親しんだグルー プホーム共生の里での生活継続を希望しているため、介護 認定で非該当の場合、継続してグループホームを利用。 ・ 職員体制(令和7年12月末時点) 常勤23名、非常勤15名 (内: サービス管理責任者: 6名 栄養士: 専属1名 看護職員(看護師・准看護師): 4名体制) 職員の専門性として精神保健福祉士、社会福祉士、介護福 祉士などの福祉専門職の有資格者が、職員の70%以上を 占めている。 ・ レクリエーション活動: 木下大サーカスの観覧、ブルーベリー狩り、映画鑑賞・夢 活動センターとの合同旅行(大分)、そうめん流し、サッ カー観戦、大正琴のクリスマス演奏会(東矢留区自治会館 にて)、行橋福祉祭りへの参加、芋掘りと玉ねぎ栽培等、 利用者の喜びにつながる多様な活動を実施。 活動の様子はホームページに掲載。 ・ 利用者の障害支援区分と障害種別の構成報告 精神障害: 約6割 知的障害: 約3割 身体障害・発達障害: 合わせて約1割(身体障害1級の方 も在籍中) 精神と知的、身体と精神など、複数の障害を併せ持つ利用 者もいる。 ・ 入居者の利用率の推移と職員研修
--	---

	<p>今年度は年間を通じて 90.8%から 97.7%の範囲で推移（12 月時点の実績も資料に記載）。</p> <p>BCP 研修、触法研修、虐待防止研修、身体拘束防止研修、サービス管理責任者研修、相談支援従事者研修、感染予防研修、救急救命講習や介護の研修等の参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期入所（ショートステイ）の利用状況 <p>月に 1 泊から 4 泊の期間で利用する方が中心で、登録者 9 名のうち、月平均 4 名から 6 名が利用している。</p> <p>春風ホーム：平均年齢 26 歳（21 歳～27 歳）</p> <p>そよかぜホーム：平均年齢 42 歳（29 歳～54 歳）</p> <p>若い世代の利用者が多い傾向にある</p> ・食事提供体制 <p>以前は配食サービス「タイヘイ」を利用していたが、一昨年から栄養士を採用し手作り料理を提供中（介護ホームの厨房を利用）。</p> <p>不在時は配食サービスの「タイヘイ」を利用。</p> <p>手作りの料理提供できたことで、食事が美味しくなったと多く声が上がっている。</p> ・消防訓練 <p>年 2 回実施されており、直近では 7 月 17 日に夜間想定 of 合同訓練が行われました。</p> <p>訓練には消防署員も参加し、消火器の実演指導などが行われ、参加者は実践的な知識を習得</p> ・BCP 報告 <p>災害時備蓄品の確認と机上訓練等を実施</p> ・感染症対策 <p>小波瀬病院の看護師を講師として招き、効果的な消毒方法について指導を受けた</p> <p>法人内で定期的な感染症研修を実施。季節性感染症（インフルエンザ、コロナ、ノロウイルスなど）や食中毒に関する研修等</p> ・地域社会との連携・実習生受け入れ <p>豊津地区では、職員と利用者が一緒に清掃活動に参加</p> <p>東矢留区長からの誘いで、バーベキューに参加。利用者 6 名が参加</p> <p>築城西高等学校から毎年 2 名程度の高校 2 年生がインターンシップ（職場体験）</p> <p>西南女学院や福岡県立大学から、昨年度・今年度ともに 3 名の実習生を受け入れ、精神保健福祉士の実習指導を実施</p> ・安全対策 <p>各ホームに防犯カメラを設置し、安全対策を強化</p>
--	---

3、質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー観戦（ミクニワールドスタジアム北九州）への外出手段について →移動は公用車を使用。足の不自由な利用者がいるため、電車ではなく車を選択。 →利用時には、適切な保険に加入していることも説明 ・東矢留区長より公民館利用への感謝と連携強化及び交通安全に関する懸念（役員会で「団地内でスピードを出して走る車がいる」と報告あり）について →注意喚起と再発防止を行う。 ・施設の夜間および緊急時の対応体制について →春風ホームでは、週2回（月曜日・金曜日）宿直。 →そよかぜホームでは、ショートステイや初めて利用する方がいる場合に宿直を実施。 利用者の状態が不安定な時など、状況に応じて緊急の宿直体制をとることがある。 宿直がいない夜間や早朝は、オンコール体制（交代制；複数職員でオンコール実施）、直接対応もあり ・特別支援学校卒業生の保護者ネットワークの評判について →保護者間のネットワークで、「春風ホームは非常に良い」という口コミが広がっており、数名短期入所を検討している。 ・そよかぜホームと春風ホームの使い分けについて →2つのホームの使い分けについて明確な基準はなく、性別による区別も特に設けていない。 現状では、そよかぜホームは女性の利用者が多い傾向にある。
4、利用者 ご家族より	<ul style="list-style-type: none"> ・家族がお世話になり、感謝しています。弟も満足しています。これからも長い付き合いとなると思いますが、よろしくお願いします。
1.閉会の言葉	管理者 金子